



フロントランナー

Front Runner

世の中の人々が、何に困っているのか、何を求めているのか。「いつも、いつも考え続けている」と言う＝東京都渋谷区

ナビット社長 福井 泰代さん (53歳) 主婦パワーで便利情報を発信

専業主婦だった29歳のとき、買い物に行こうとして、JR山手線の西日暮里駅で途方に暮れてしまった。生まれたばかりの長男を抱き、3歳の長女が乗るベビーカーを押していた。エレベーターを探す、眼前に現れるのは階段ばかり。ついに構内で迷った。普通なら、突き放されたような気分で心沈むところを「エレベーターの場所がわかる地図があればいい」とひらめいた。

今では当たり前だが、25年ほど前まで、複雑に入り組む都会の駅で、親切な案内マップを見つけるのは難しかった。すぐに会社員の夫に子どもを預け、週末のたびに地下鉄の駅へ。何両目に乗れば、出口やトイレ、エスカレーターが近いのか。ノートとペンを持ち、一駅一駅で克明に記す。「駅員さんには怪しいと見えたのか、何度も事務所に連行されるし、『子どもを置いてなにをやっているんだ』と夫には叱られるし、それは大変でした」

でも、やめなかった。当時、東京圏にあった250超の地下鉄駅すべてを歩き、5カ月かけて調べ、「のりかえ便利マップ」の原型を完成させた。

発明好きな一人の主婦の発明品は最初、相手にされなかった。それが25年経ったいまは東京・九段下のビルにオフィスを構えるまでになり、のりかえ便利マップは全国の主要鉄道会社に採用され、取引先リストにはグーグルやヤフー、食ベログを運営するカカコムなど、ネット世界の牽引役が並ぶ。

事業は生活を取りまくありとあらゆる分野にまで広がっている。誰もが世話になっているはずだ。例えばインターネットの地図検索で会社や店を調べると、住所や電話番号が表示される。そのデータを提供している。

いろんなウェブサイトで目にするお花見や花火大会、海水浴場の情報、各地のスーパーの特売チラシ、行政の助成金といったデータまで扱う。

「情報に網を張る」。言うはやすく行は難しのテーマに、かつての自分と同じ、幼い子を抱えた主婦の力を使う。在宅ワークを集めたサイト「Social-hoStyle」を立ち上げ、応募した主婦には地域特派員として、各自ができる範囲で働いてもらう。特派員は全国で約5万8千人。一人ひとりが集めたきめ細かい情報が、膨大なデータとなり、強いパワーとなる。

20年来のつきあいになる馬場健・常務(50)は「止まることを知らない。すごい勢いでいろいろ思いつく人」と評する。本人は「私が『おもしろいこと思いついた!』って言う、最近社員が顔を背けるんですよね」と笑う。今日は何を思いつくのだろう。

文・斎藤健一郎 写真・藤原伸雄